

水辺にて

秋名菊が咲いている
静けさのなかに水が流れている
みなもに秋の陽がやわらかく射している
日はすぐに翳りさみしくけれどあたたかい
焼きつけるようにみなもを見る水にこころが酔うまで

魁夷の祈り

夕明かりのなか立ちすくんだ
絵を見たあとの体に東山の霧があざやかに飛び込んできた
霧がわたしを冷やす
絵のなかの川と澄んだ月の冷たさ山の夕もや
どちらにもやわらかな祈りが宿っている